

インターバンクの声（2014 年 9 月 9 日）

週明けの欧米市場では、特に目立つような経済指標の発表もなく、スコットランドの独立住民投票を控え、アジア市場でも活発に動いた英ポンドの値動きが大きくなりそうだとの見方がほとんどだった。ところが、ウクライナでの停戦合意があったためユーロの動きだけは出遅れたが、豪ドルや円に対するドル買いの動きが顕著になる一日となった。週末の雇用統計の結果がやや予想外だったにも関わらず、先行きのドル上昇に対する見方に大きな変化がなかった為、アジア市場でもドルの底堅さが確認されていたところへ、サンフランシスコ連銀の研究者リポートがドル買いを更に勢い付けたようだ。リポートの内容は、市場が利上げのペースを過小評価していることを示唆している可能性があるという指摘、またこのリポートが伝わる少し前に、本田内閣参与が日銀の追加緩和の可能性を肯定しているとの記事が伝わっていたことも対円でのドル買いに動きやすくなったのだろう。8月末から一週間ちょっとで2円50銭ほどの円安変化は少し早すぎる気もするが、米長期金利がさらに上昇するようであれば、もう一段のドル上昇もありそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。